

はじめに

近年のエネルギーを取り巻く環境は、生活様式や経済活動の高度化に伴い、大量生産・大量消費の社会構造が顕在化し、エネルギー消費が年々高まっております。エネルギー資源に脆弱なわが国では、近年の国際情勢や原子力をめぐる諸問題は、将来にわたるエネルギーの安定供給に憂慮される状況にあります。

一方、化石エネルギーの消費に伴う地球環境への影響は、今や世界的な課題として各国が取り上げ、エネルギー消費や環境負荷の低減に取り組んでいるところであり、国においてもエネルギー政策の中で、省エネルギーの推進やクリーンエネルギーの導入を提唱しているところでもあります。

このような状況の中で、本市の有している豊かな自然や、歴史のある街なみを大切にしながら環境に配慮した美しく快適なまちづくりを進め、良好なまま将来に引き継いでいくことは、21世紀を生きる私たちの責務であります。

本市では、これまで「第四次塩竈市長期総合計画(平成13年4月策定)」の中で、先導的かつ重点的に進めていくべき事業の一つに「うるおい環境プロジェクト」を推進し、その流れを受けて策定した「塩竈市環境基本計画(平成14年10月策定)」では、良好な自然環境や生活環境を次の世代に継承するため、自然と共生し、環境への負荷の少ない資源循環型社会の実現を目指しているところでもあります。

さらに、環境基本計画の中で、計画の実効性を確保するための重点施策として「新エネルギーの導入」を推進することとしております。

今回策定した『塩竈市地域新エネルギービジョン』は、これらの計画を実効性のあるものとしていくための第一歩であり、地域の資源を最大限に活用しながら、市民・事業者・行政のそれぞれの立場でどういった取り組みが可能なのかを、取りまとめたものであります。

今後、ビジョンに上げております各種施策を、市民・事業者の皆様と一緒に推進し、先人の残してくれた豊かな自然を守り、歴史や文化とともに、次の世代に引き継いでいくことができれば、本市の目指す環境都市「しおがま」の実現に大きく近づいていくものと、期待を寄せているところであります。

最後に、本ビジョンの策定にあたり、新エネルギービジョン策定委員会の委員長として専門的な立場から貴重なご提言や懇切なご指導をいただきました東北大学大学院齋藤武雄教授はじめ、策定委員会の皆様、ならびにご協力いただきました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

2004年2月

塩竈市長 佐藤 昭

塩竈市地域新エネルギービジョンによせて

新エネルギーを基軸とした海・食・人が生きるまちをめざして

21世紀は地球温暖化、都市温暖化などの、いわゆる環境問題が大きくクローズアップされる時代です。石油などの化石燃料や物質をふんだんに消費して驚異的な経済発展を遂げた20世紀とは様変わりして、今世紀は、二酸化炭素(CO₂)による地球温暖化の進行や化石燃料そのものの枯渇化が懸念される状況となりました。

一方、市町村単位に目を向けますと、人口の減少による過疎化や地域産業の衰退、文化活動の沈滞など、極めて深刻な問題を抱えています。

このような背景のもと、塩竈市では、本年度、「自然と共生し環境負荷の少ない快適に暮らせるまちづくり、塩竈市の特性と地域資源を活かしたまちづくり」を基本理念として、地域新エネルギービジョンを策定しました。

塩竈市は松島湾の内陸部に位置し、陸奥の国府多賀城への荷揚げ港として、また、鹽竈神社の門前町として古くから栄えてきました。海に面する市の中央部のほとんどは埋立地等から成っており、港湾、商工業地域を形成、丘陵地帯は住宅、文教地帯となっています。特別名勝松島湾内の浦戸諸島は夏の海水浴、マリンスポーツ、そして新鮮な海の幸を求める人々で賑いをみせています。

また、海に面しているため気候も比較的温暖で、冬季間の積雪も少なく住みやすい気象条件の環境で、太陽熱・光、バイオマスなどの再生可能エネルギーに恵まれています。新エネルギービジョンは、本市の「第四次塩竈市長期総合計画」および「塩竈市環境基本計画」の実行プランのひとつに位置づけられています。

本ビジョンは、これを受けて新たに地域新エネルギービジョン策定委員会を結成し、新エネルギーの導入・推進に向けた検討を重ねてまいりました。

新しい21世紀は、これまでのように際限なくエネルギーや物質・食糧を消費できる時代ではなくなりました。限られた資源・エネルギーを無駄なく有効に使い、また、新エネルギーなどを極力導入することにより持続的・永続的なライフスタイルを構築し、文化の香りの高い豊かな街づくりに反映させることが急務です。

本ビジョン策定にあたりご尽力・ご理解をいただきました佐藤 昭市長はじめ、市の関係者、ならびに策定委員会の各委員の皆様にご挨拶申し上げます。

2004年2月

塩竈市地域新エネルギービジョン策定委員会 委員長
東北大学大学院環境科学研究科 教授 齋藤 武雄